

社会科副読本「わたしたちの浦東」改定にあたって

前上海日本人学校浦東校 教諭

千葉県野田市立北部小学校 教諭 渡 辺 雅 代

キーワード：上海 社会科副読本の改定 上海への愛着・親しみ 地域への誇りと愛情

1. はじめに

日本人学校に務めて日々感じることは、子どもたちの中国・上海に対する愛情・親しみの薄さであった。着任2年目には、日中関係の悪化、大気汚染、鳥インフルエンザ、食品偽装などの問題が浮上し、子どもたちの上海に対する印象はさらに悪くなった。そこで社会科副読本作成の担当として、社会科副読本がこうした子どもたちの上海に対する印象をよくし、少しでも愛情・親しみをもたせるような役割を果たすものにならないであろうかと考えた。

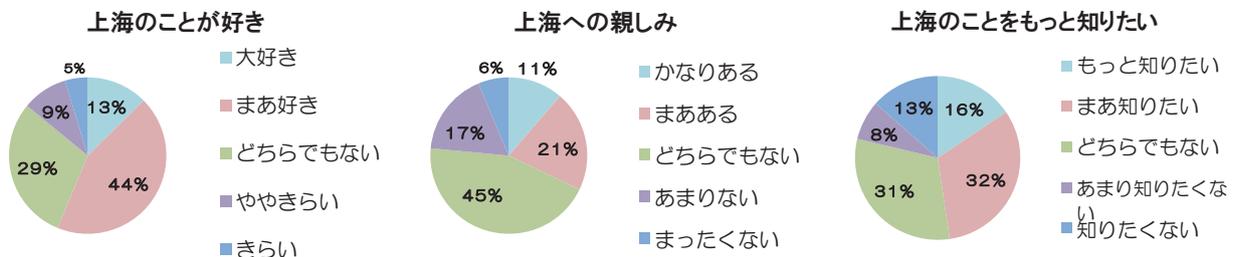
当時、子どもたちは地域学習において、教科書で取りあげられている兵庫県について学習し、上海の地域を学習する機会がなかった。子どもたちに上海への愛情や親しみをもたせるには、まず上海を知ることだと考えた。社会科副読本は上海のことを知るきっかけ、考えるきっかけとなるものにし、本当の上海、本当の中国を日本に伝えてほしいという思いをもち、上海の情報を多く盛り込んだ社会科副読本の改定に取り組んだ。

2. 子どもたちの現状

(1) アンケート結果と考察

子どもたちの上海に対する印象や知識を知るためにアンケートをとり、考察し、作成の手がかりとした。

下のグラフは上海日本人学校の児童・生徒の上海に対する印象である。(対象児童；112名・生徒；110名)



アンケートの結果、上海のことは好きだが、親しみはそうもってはいない。また、上海を知りたいと思っている児童・生徒は約半数だった。知りたくないという回答が増えているのも事実である。どうせいつかは日本に戻るのだから、知らなくてもよい、ということが考えられる。

また、約半数が上海のことを知りたいと思っているが、残念ながら知る機会が少ないのが上海日本人学校の現状である。

- ①自宅と学校以外で外に出る際には安全上、保護者同伴となる。
- ②登下校もバス通学が一般である。
- ③上海の特産物について語り継いでくれる年配の方の存在がない。

という理由から、小学校3、4年までに得る地域の知識や経験・体験が少ないといえる。

3. 作成にあたって

(1) 児童・教師へのアンケート

児童・生徒の実態をふまえて、ねらいである「上海に親しみをもてるような、好きになれるような」副読本に

するために、小学4・5年生にアンケート調査をした。

①児童対象のアンケート内容と結果と考察

中国語表記のもの、読み方、難しい表現、説明、読めない漢字などが、子どもの思考の妨げともなっていたようだ。写真・グラフは児童の理解を助けるものとなっていた。しかし古いもの、鮮明でないものは新しいものに変えてほしいという意見もあった。上海の成長は著しい。一年前の情報でさえも古くなる場合もある。情報を最新にしていくことは上海ならではの課題である。そこで、次のことに気をつけて作成にあたることにした。

[わかりやすさ・使いやすさ]

- ・分からない言葉の説明…「ことば」
- ・字の大きさを大きめにする。
- ・ふりがなをふる。
- ・写真は最新で鮮明なものにし、多めに入れる。
- ・適度な量で見やすい写真・グラフ・表の活用
- ・レイアウトの一本化

[情報量]

- ・「児童の知的好奇心に応えるため」「調べ学習のため」「在外ならではの事情で校外学習に行けないときのため」などを考え、資料を多く巻末に取り入れた。

[楽しく学習]

- ・キャラクターや絵を、発達段階を考慮して適度に取り入れる。キャラクターや挿絵を児童から募集して掲載し、より親しみがもてるようにする。

上海・中国、そして日本にかかわるキャラクターを考え、おのおののキャラクターに性格をもたせ、いっしょになって学習していくという形態をとる。



児童が考えたキャラクターと挿絵



キャラクター紹介ページ

②保護者の存在

アンケート結果、保護者の存在も大きかった。出かけるときに役立ったという意見もあり、保護者も活用していた。この副読本を通して保護者の理解も深め、上海に対する認識が変わると児童の考えの変化にもつながると考える。

③教師対象のアンケート結果

あると助かる資料、情報や提案事項、実際に使ってわかったことが、様々な面からの情報を知り得ることができた。

4. 編集メンバーと大まかな流れ・改訂会議の計画と進め方

(1) 副読本改定メンバー；小学部の各学年1人

1年；寺岡 2年；後藤 3年；鈴木 4年；渡辺 5年；佐藤 6年；向井

(2) 完成までの大まかな流れと改定会議

回数	月	日・曜日	時間	主な内容
①	4	24 (水)	4:30～	組織作り, 編集会議, 作業の分担, 改訂版出版の流れの確認
②	6	4 (火)	3:00～	改定一次案の経過報告。検討, 追加
③	6	18 (火)	3:00～	改定一次案追加の報告
④	7	17 (水)	4:30～	取材, 資料収集などの細かい分担
⑤	8	29 (木)	3:00～	中間報告 資料の再確認
⑥	9	17 (火)	3:00～	改定二次案の経過報告。検討, 追加
⑦	10	29 (火)	3:00～	改訂二次案追加の確認
⑧		6 (水)	4:30～	各原稿の読み合わせ, 修正
⑨	11	21 (木)	4:30～	修正の読み合わせ
⑩		26 (火)	3:00～	改訂作業終了, 製本, 完成→業者引き渡し
⑪	12	4 (水)	4:30～	予備
	12			[引き渡し後]
	12			一週間ほどでサンプル到着
	1			サンプル確認 修正などの調整
	2			製本
	2			製本が届く
	3			確認
	3			教師・協力者に配布
	4			新3年・新4年に配布

①会議は改定メンバー中心に上の計画に沿って行った。基本的に月1回, 第3週目の火曜もしくは水曜に設定。計11回の予定で計画を立てる。長期の休みには取材を進めた。全教員で協力して写真や情報, 資料を収集した。

5. 情報収集

海外ということで日本のように情報を得ることは難しい。そこで多方面からの協力を得ながら作成にあたった。

(1) 現地スタッフ

アンケートをとり, 地元, 上海の情報を得た。日本人では知り得ない情報はもちろん, 地元の方ならではの考えや文化, 感覚も知り得ることができた。他には通訳や交渉など地元の人ならではの仕事をお願いした。

(2) 上海に詳しい人の協力

地元の方, 長年上海に住んでいらっしゃる日本の方, 保護者。特に歴史散歩の会の方々の協力は大きかった。

(3) 取材

地元の博物館, 資料館, 校外学習先であるクリーンセンター, 浄水場, 消防署, 警察署などに足を運んだ。取材がスムーズにいくよう, 事前に計画書を作成し, 訪問した。

(4) 職員全体による写真・情報の収集

(5) 他地域の日本人学校からの情報提供

- ・上海日本人学校虹橋校との情報交換
- ・ロッテルダム日本人学校より中華街の写真, 情報などの提供
- ・ジャカルタ日本人学校からの作成に関する情報の提供

6. 完成

(1) A4版 191ページ(内、資料50ページ)全頁カラー



4年 「事故や事件からくらしをまもる」



4年 「地域の発展に貢献した人々」…豊田佐吉



4年 「事故や事件からくらしをまもる」



資料「外灘」

(2) 教師用副読本指導書

指導書と書いているが、その単元について知っていることを書いているだけのものである。ほとんどの教員が日本から派遣されており、上海のことをよくは知らない。新派遣の先生ともなると、まったくその土地についてわからない。そこで、今、知っていることを残し、引き継ぎスムーズに指導できるようにできればと考えて作成した。

(3) 改定された単元や新たに作られた単元の指導案

どの先生が3・4年生を担当しても授業がしやすいように、新学習指導要領によって変わった単元の指導案を作成した。ゼロからの教材研究は大変である。引き継いでいくことで知識も増えていく。さらに、新しく発見した上海の情報、最新の常用などの財産を蓄積できればと考える。

(4) 評価用ワークテスト

自作の副読本であるため、ワークテストも自作しないと評価ができない。残念ながらこの作成は計画で終わり、実際に作るまでには至らなかった。しかし、評価をする上で必要不可欠なものであるので、来年度に引き継ぐ。

7. 成果と課題

(1) 成果

①子どもや教員、現地スタッフの声を生かした副読本

作成上での成果として、上にあげる人々の考えをアンケートで知り、それらの情報や意見を軸に副読本作成に取り組めた。出来上がったものを買いたいという保護者の声も聞かれた。

②新しい単元の作成と他教科での活用

上海で活躍した日本人について新しく副読本に取り入れることができた。これらは道徳の資料としても活用できた。

また、4年の「事故や事件からまもる」では、学校が多くの人に見守られていることがわかり、生活科でも活用できる。

③地図と写真の活用

子どもたちの上海での移動は公共交通機関である。ほとんどの家庭が自家用車を持っていない。そのため、地理的感覚が乏しい。これは教員にもいえる。位置関係の把握が困難なため、地図に写真を載せ、位置関係を知る手がかりとさせた。

④資料の充実

子どもたちが上海のことを知ることができるとともに、「もっと知りたい」にもつながるのではないかと考える。

⑤上海の新発見

◇修理屋さんの存在

経済的理由もあると思うが、各マンション（公寓）には修理屋があり、上海人は壊れたら修理に出し、長く物を使用する。日本で修理に出すと費用と時間がかかるもの、または技術的に無理なものが、その場で即、安い修理代で直すことができた。

◇ごみの分別

上海ではごみの分別がされていないと思われていたが、実は7種類に分別されていた。最近では分別の中に残飯も加わり、その袋は土に溶ける環境によいものであった。当時はお試し期間だったので、そのごみ袋は市から無料で家庭に配布されていた。

◇ごみ箱の設置数

平均60mに一つ設置されているという計算。それくらい多く設置され、行政のごみ収集に対する意識が高いのだ。

◇民間のリサイクル業者

電話一本でリサイクル品回収を行ってくれる。

これらは、副読本作成をするにあたり、上海3年目にして初めて知ったことであった。こうして上海のことを好きになる材料を探りだすことができた。おそらく子どもたちの知っている上海とはちがう側面が多くあるのだ。

(2) 課題

①組織と進め方

新学習指導要領に準じた副読本の作成とあり、改定するページが多かった。また、上海の情勢を考えると、校外学習の中止、外出の制限なども考えられる。そうした場合にも対応できるよう、詳しい内容にする必要があり、作成にあたって負担になることもあった。また、上海は日々変化する。一年でデータを最新のものにすることが求められる内容もある。こうした現状にあった組織作りと引き継ぎと一時期だけでなく長期にわたっての改定が必要である。

②日中関係

多くの上海人が親切で優しくだったが、日本人への見方が厳しい中国人がいることは確かだ。日中関係が悪化していたときにはかなりの緊張感があった。タクシーに乗るに時にもうかつに日本語を話せない。また南京に行った際には、日本語を控えて行動していた。そんな中で取材を進めたり、副読本の写真を撮りにいったりすることに、上の理由で支障をきたすこともあった。また、無断で役人を写真に撮るのは法に触れてしまうので、そのための許可を取ることが難しかった。

③評価用ワークテスト

児童の評価をする上で必要不可欠である。副読本だけでなく、それに付随するものの作成も必要である。評価用ワークテストもその一つである。

④全児童・生徒への普及の難しさと教員の上海に対する知識

小学校3・4年での活用であり、5年生以上の児童・生徒は学習する機会がない。総合的な学習や道徳などで活用することで上海のことを知る機会となるのではないかと考える。そのためには、小学部・中学部の教員がある程度の上海に対する知識が必要かと思う。

9. 終わりに

副読本を作成することにより、自分自身の上海に対する知識・理解が深まるとともに上海への愛着も大きなものとなった。児童・生徒も上海の理解を深めるとともに、親しみ・愛着がもてることを願う。

副読本が完成したときは本当に感動した。多くの方々の惜しみない協力があったことである。心から感謝する。